



田園地帯を流れる拾ヶ堰の美化活動が彼方の海を思いやる心育む

環境大臣賞 長野県 安曇野市立豊科南小学校

西に北アルプス、東に美ヶ原高原をのぞみ、豊かな田園に抱かれるように佇む同校。その環境を生かして、近くを流れる農業用水路「拾ヶ堰（じっかせぎ）」から水を引き、1975年に学校ビオトープを整備した。

現在は、アブラハヤやドジョウなどの魚や水生昆虫、それらを捕食するサギなど多様な動植物が観察できるが、今から約20年前、学校ビオトープの一つである百石堰（ひゃっこくせぎ）には、ビニール袋や野菜くずなどのごみが日々流れ込んできて、掃除をしても追いつかないほどだった。当時の児童は、学校や地域にポスターでごみを捨てないよう呼びかけたが、効果は見られず苦戦。対策に考えをめぐらせた結果、取水元の拾ヶ堰をきれいにしなければごみはなくなるとの結論に至り、田んぼの水が不要の秋、児童は拾ヶ堰を管理する土地改良区職員に止水を依頼した。

こうして、拾ヶ堰の中に入って掃除を行う「拾ヶ堰クリーン大作戦」が始まった。その後、児童が懸命にごみの回収に挑む姿に触発された大人も参加するようになり、20回を数える今年は、保護者や地域住民、団体、自治体職員ら総勢700名で行う一大行事に発展した。

児童が提案、発信し、地域を巻き込んだ美化活動。その様子を見守る長野県拾ヶ堰土地改良区の平林建彦理事長は、「20年続いてきたクリーン大作戦をきっかけに、さまざまな環境問題に興味を持ってもらえたらうれしい」と期待を込める。

2016年、拾ヶ堰は「世界かんがい施設遺産」に登録された。手応えを実感する児童は、他にも、アルミ缶回収活動や花壇整備など学年に応じた美化活動に励む。また、拾ヶ堰のごみは年々減少しているものの、ゼロにはならないことを問題視し、拾ヶ堰沿いにある他の小学校にも呼びかけてクリーン大作戦を行うことを模索中だ。「身近な拾ヶ堰をきれいにすることは、海の豊かさを守ることに繋がる」—安曇野地域の自然や歴史を守りながら、児童は持続可能な開発目標（SDGs）を見据えている。



長野県安曇野市立豊科南（とよしなみなみ）小学校

学校長：丸山 広樹（まるやま ひろき）

児童数：662名(2019年11月末現在)

住所：長野県安曇野市豊科 2723

電話：0263-72-2154

アクセス：JR「南豊科」駅からクルマで約5分

写真上：百石堰の清掃活動を行う3年生、2番目：止水した拾ヶ堰で行うクリーン大作戦の様子、3番目左：学校ビオトープの水車をモチーフにした学校花壇と雄大な北アルプス、右：美化活動後にごみを分別する2年生、下：世界かんがい施設遺産登録式典で環境宣言する児童